

第379回放送番組審議会

1 日 時 2017年10月17日(火)14時～15時30分

2 場 所 tvk 第1会議室

3 委員総数 8名 出席者7名、欠席者1名 伊藤有孝委員

出席委員; 山田一廣委員長、布施勉副委員長、白石俊雄委員、林義亮委員、五大路子委員、吉川知恵子委員、二宮泉委員
tvk; 中村行宏社長、押川渉取締役、熊谷典和コンテンツ局長、大谷英典コンテンツ局次長

4 議 題 (1)放送番組

資料:①10月のタイムテーブル

②10月～11月の特番一覧表

(2)視聴合評

特別番組『秦野たばこ祭』

2017年10月9日(月・祝)午後0時～0時30分

(3)その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2017年9月16日(土)～2017年10月13日(金)

・第378回(9月)放送番組審議会の議事報告

(「猫ひたプラス」2017年10月13日放送VTR)

5 議事内容 2ページ以降に記載

6 審議期間の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1) 2017年10月13日(金)「猫ひたプラス」(12:00～12:15)の

「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2) 審議概要を当社インターネットホームページに掲載

押川編成局長 伊藤委員からご連絡がありまして、急遽都合がつかなくなったのでご欠席と
いうことです。

山田委員長 それでは始めさせていただきます。10月も中旬で、本来でしたら爽やかな秋
空が広がりのいい季節だと思うんですが、4～5日冷たい雨が降って本当に肌
寒くなりました。私事ですが今日はマフラーを持って外出したぐらい、そのぐ
らい寒いですね。寒いながら、甲子園球場では今日 DeNA と阪神タイガース
のクライマックスシリーズをかけた試合がございます。この寒い季節ですが、
試合の内容ぐらいいはせめて熱いものにしていただいて、何とか DeNA に広島
に行ってもらいたいなというふうに考えています。それでは第379回目の番
組審議会を始めさせていただきます。中村社長、よろしくお願いいいたします。

中村社長 中村でございます。本日も足元のお悪い中、ありがとうございます。今委員長
からお話もございましたが、今日で3試合目ということで、広島に行けるかどう
かということです。おとといの試合を、雨の中の田植え前の田んぼのような球
場での中継を私どもは、ABC 朝日放送から番組の部分だけを白でもらって、
うちのアナウンサーが実況を付けてという形でやりました。2時試合開始なの
で2時からスタンバイをやって、試合開始も1時間ちょっと遅れましたが、試合
が終わったのが20時何分で、都合6時間半ぐらい生中継になりました。いろ
いろ周辺の方から「tvkだからこそ、あれだけ長い時間も、全部ノーカットでで
きてよかったね」と、大変ご好評をいただきました。そして今度の日曜日には
総選挙の開票速報。これはまた後で局長から説明がありますが、20時5分前
からの、言ってみれば投票が終わった段階での、即の当確情報。それと22
時からの開票速報を構え、そして29日はここにもありますが「横浜マラソン」
があり、また横浜スタジアムでこの日にアメリカンフットボールの試合もあり、
それもやるということもあり、かなり10月は私どもも多忙な10月になりそうです。

働き方改革と言われておりますので、なるべく労働時間を少なくしていかなければならない中で、やたらやらなきゃいけないものが多いので、今ちよつと悩みの種ですが、やらなきゃいけないものはやろうとうことで頑張りたいと思います。よろしくお願いいいたします。

山田委員長

ありがとうございました。それでは、本日の議題に沿って進めてまいりたいと思います。まず最初に放送番組について。これはお手元の10月のタイムテーブル、10月から11月の特番一覧表を参照していただきながら、事務局からお願いいいたします。

押川編成局長

いつもは編成部長の近藤が説明をさせていただくのですが、季節外れの夏休みをいただいておりますので、私の方で務めさせていただきます。よろしくお願いいいたします。まず10月のタイムテーブルです。今中村からも申しました10月29日に開催されます「横浜マラソン」。これを完全生中継ということで、8時から15時30分までということでお伝えします。表表紙もそれに参加するメディアランナー、5人のうちのお2人。八神さんと岡村アナ。裏表紙もお二人の顔写真です。表紙をめくっていただきまして、最初のページにはマラソンコースの案内と、tvkが誇る各番組の人気出演者5人の方がメディアランナーとして出場されます。いずれもフルマラソンで出場します。続いてのページですが、すでに放送は終わってございますが、見事一部残留を決めました「ノジマステラ神奈川相模原 対 INAC神戸レオネッサ」の試合を中継しました。それから私ども10月編成、つまり下期編成の中心となりますスポーツ番組といえばやはりラグビー中継です。9月にも中継を行いました。10月はこの8日と22日に構えながら、高校のラグビー中継も入れて8試合の中継をしております。それから「BAYSTARS熱烈LIVE」ですが、レギュラーシーズンのホーム最終戦を10月4日に中継させていただいて、先ほど触れさせてい

ただいた15日にはCSのファーストステージも中継させていただいたところで、その後ですが、「秋季関東地区高校野球ダイジェスト」。これは春の選抜大会への足掛かりになる大会ですが、それを10月21日から25日にかけてtvkが制作キーステーションとなって関東地区の各局に制作配信をしていきます。それからアメリカンフットボール、これも10月29日に試合を横浜スタジアムで控えていますので、この模様もお伝えするというので今準備を進めています。めくっていただきまして、月曜日から日曜日までの10月のタイムテーブルです。この基本編成が10月改編の内容になります。4月、大きな改編をする時期と、10月に下期のこういったウインタースポーツを中心とした改編ということで取り組んだわけですが、丸「新」マークがついているのは、ここに16番組ございます。この中の1つにあります、日曜日24時から60分枠「ニュース女子」という番組があります。先般この会議で、林委員からこの番組の編成に至る部分での説明を求められましたので、ご説明申し上げます。この番組は私どもの局側で言いますと、「持ち込み番組」と言われるものです。いわゆるスポンサーがついて広告会社が放送局に持ち込んできて放送を依頼するというので、私どももそれを受けてこの日曜日の24時に編成をいたしました。委員の方からのご発言があったのは、実はこの番組が今現在BPOの放送人権委員会にて審議中です。実は番組自体が審議されているというものではなくて、今年の1月2日と9日に東京メトロポリタンテレビジョン、MXTVさんで沖縄の基地反対運動の特集が、この番組の中で行われました。それに対してある人権団体から申立てが行われまして、BPOではこれを受理して審議中ということになっています。今日お配りしている資料の「BPO報告 No.178」というものの表紙に、「放送人権委員会」というところに要旨がまとまっています。読ませていただきますと、『沖縄の基地反対運動特集に対する申立

て』事案の審理。対象となった番組は、TOKYO MXが2017年1月2日と9日に放送した情報バラエティ番組『ニュース女子』。委員会では、事務局が双方のこれまでの主張をまとめた資料を説明。それを基に委員が意見を交わした。今後、論点を整理するため起草担当委員が集まって協議することになった」ということです。これは8月の報告ですので、今現在は9月に行われて、10月の同委員会で申立人、それから被申立人双方にヒアリングを行うことが報告されています。ただしこの情報番組に対する部分で審理対象となっているのは既に放送済みの番組についてだということを、まずご報告させていただきます。私どもとしては早い段階で放送依頼を受けていましたが、こういった審理に入る前に申し立てがあったという情報の情報がありましたので、慎重にそこは確認をしようということで、ここまで確認作業を行いながら、またこの審理の内容を見守ってまいりました。その中で今後の放送についてということで、制作関係および当然私ども局としての考査もしっかり行うということの確認を行い、またスポンサー側も局側の判断によって「これは放送にふさわしくない」という回の場合は、放送を休止してよろしいということは確認されましたので、私どもとしてはこの番組を編成することになりました。併せてご説明ということにさせていただきたいと思います。引き続いて番組改編の情報ということで、ページをおめくりいただいて、秋の23時から23時30分のところに火・水・木とドラマを編成します。「もひかん家の家族会ぎ」。これは書籍等で非常に話題を呼んだもののドラマ化です。「まかない荘2」「深夜食堂2」を編成してまいります。また月～金のベルト25時から25時30分ですが、ここは深夜アニメ帯ということでアニメ作品の新番組をお送りしてまいります。以上、他はスペシャルプログラムとしてのご案内ということでご確認いただければと思います。特にスペシャルプログラムは、特番関係になりますので、併せて

別紙にご用意させていただいた、「10月11月の特別番組一覧」をご覧ください。今回は10月18日から11月25日までの特番をご説明いたします。特にこの期間中は10月22日、総選挙の投開票日になります。この選挙に関しては、まず19時55分から20時30分、これを第1部としまして、「選挙の日にみるテレビ」というタイトルの下、「出口調査速報」をお送りします。また22時から、今の予定では25時を予定しておりますが、第2部「開票速報」で構えをさせていただきます。なお神奈川選挙区、小選挙区は18区ありますが、この25時までには当確が出ない場合は、18区すべての当確が揃うまで放送を延長しようということで準備をしています。併せて先ほどのアメリカンフットボールも予定しておりますし、見事今日ベイスターズがファイナルステージに進みますと、22日が第5戦目になります。同じく広島の地元局から私どもはこの5戦目の試合の模様をいただけるご調整をいただきましたので、なんとかファイナルに進んでいただいて、なおかつ勝ち続けて5戦目を迎えてもらえればと希望しています。併せてごらんください。その他、25日までのそれぞれの特番をご確認ください。以上がタイムテーブルから特番一覧のご説明となります。

山田委員長

ありがとうございました。事務局から10月のタイムテーブル、10月11月の特番一覧表について説明がありましたが、どなたかご意見、ご質問等がありましたら。前回林さんの方から質問が出ましたTOKYO MXテレビのことも丁寧に触れていただきましたので、この点、林さんの方からいかがでしょうか。

林委員

ありがとうございました。実は先月長野で開かれたマスコミ倫理懇談会で、私はたまたま「国益とメディア」という分科会に出たんですが、そこで偶然だと思うんですが、この「ニュース女子」が放送局関係者から話題が出まして、取材のやり方にいささか疑義を呈するという話の仕方ではあったんですが。非常に、いい意味とは敢えて言いませんが、関心を集めている番組なので、編成

に当たっていろいろ配慮なされるということなので、よろしくお願ひしたいと思
っています。それから質問なんですが、選挙報道の日に1部と2部の間に90
分時間がありますよね。これは選挙関係の何かがあるんですか。

中村社長 全く選挙関係ではございません。要は、出口調査で当確を打てるものは打っ
た後は、粛々と開票の速報が出るまではどうにも判断できないよねということ
で。はっきり言って、その間あまりやることがないということです。

林委員 そうですか。座談会か何かおやりになるのかなと思ったんですが。

中村社長 22時の本編に入ってから座談会という形ではないですが、よくご存じのよう
に選管から出てくる票は30分刻みになってきますので、その間、間は解説を、
かつては林さんにやっていたいたんですが、今度神奈川大学の法学部准
教授さんをお願いするように聞いております。そのように構成をしています。

林委員 わかりました。

山田委員長 他にございませんか。放送番組について。ないようでしたら、2番目の視聴合
評に移りたいと思います。

視 聴 合 評

山田委員長 ありがとうございます。この秦野のたばこ祭は古い歴史を持っておりまして、
今年で70回目ということで。平成24年、今から5年前の10月の番組審議委
員会でもこの秦野たばこ祭を取り上げて、いろいろ委員の皆さんから意見が
出たわけですが。大谷さんから改めてこの番組制作についての意図のような
ものを話していただければと思います。

大谷コンテンツ局次長 はい、「秦野たばこ祭」はだいぶ長くtvkでも放送させていただいて。祭のアー
カイブ的な要素が第一義なんです、いかにすごいたくさん。「秦野たば
こ祭」は1個の祭ではなく、ご覧いただいたようにお祭りの要素としては50ぐ
らい、阿波踊りがあつたり、火起こしコンテスト、コンサートなど50ぐらいあつて、

それを30分の中に収めるという。総花的になってしまうのですが、アーカイブという要素もあります。実は来年の「秦野たばこ祭」前に放送して、こういうたばこ祭があるから来てくださいねと、再放送をすることもあるので、とにかく限られた時間の中に詰め込みすぎない程度に盛りだくさんにするという。飽きないように手を替え品を替えをしているんですが、そういう形で番組を作っています。30万人以上、秦野の人口が17万人ぐらいですので、2日間秦野の人口がそこのお祭りに参加するという。県西地域では非常に大きな、神技的な部分はあまりないんですが、観光のお祭りとしては非常に大規模なものをやらせていただいたということになっています。

山田委員長

ありがとうございました。それでは委員の皆さんから意見をいただきます。まずトップバッター、吉川さんからお願いします。

吉川委員

昨日一生懸命見たんですが、あろうことかその手控えを忘れてきてしまいました。記憶と、先ほど見せていただいたもので申し上げたいと思います。今ご説明を聞いていて、アーカイブだからということと、総花的になってしまうという悩みを制作者の側でもお持ちだったんだなということを確認させていただきました。正直言って、このお祭り自体には、後で述べるように、いろいろすごく印象を持ったんですが、番組としてはおもちゃ箱をガラガラっとひっくり返して見せられただけというような印象を持ってしまいました。お祭りの内容が盛りだくさんで、阿波踊りとかよさこいとか。市長さんの言葉にも「このお祭り自体が、全国のお祭りの良いところを取った」という特徴を紹介されていますが、まさにその通りの見せ方になっていたなという印象です。やはり70回ということで御社でも何度も取材をされているので、切り口に苦勞をされたというのと、説明がどこかちょっと雑になっている部分もあるんだろうと思うんですが。私は初めて拝見したので。番組の冒頭からいくつか「はてな、はてな、はてな」

と思うところがありました。細かいことなんです。たとえば「明治期の秦野」というキャプションが出ている写真にかぶせるようにナレーションで、「江戸時代の秦野は」と。江戸時代と言いながらなんで明治時代の写真が出るの、という違和感だったり、それから「じんじん～其の二」に出てくる大地康雄さんとか俳優さんたちが盛んにコメントを始めるんですが、途中番組の中ほどでようやく「じんじん～其の二」という映画が、この秦野とどういう関わりがあってそして映画の中にお祭り自体も登場したのだという種明かしがあるんですが、それが全くないまま、やたらわからない俳優さんが、鶴田さんも含めてどういう縁があるかわからないままコメントを次々されていくことの不可解さ。ミス日本の水の天使だとか緑の女神という方たちがいったい秦野とどういう関わりがあるのかかわからないまま、一人ずつコメントをとっていくということだったり。細かいところでは、ステージに、これは肖像権の問題があって出なかったんでしょうけど、「新沼謙治」と大きくコンサートの看板が出ているのに、新沼謙治の絵面ではなくて消防団と何かの、たしか私の記憶では、そのコンサートの紹介に思いっきりいやでも目に付く大きさに「新沼謙治」という字が飛び込んでくるというような絵的な違和感みたいな。細かいところのひっかかりはいろいろ感じました。ただこの祭りのすごいなと思ったところは、たばこ音頭千人パレードもそうですけど、マーチングバンドに小さなお子さんが参加していたり、中学生の美術部が一生懸命ランタンを作ったり。もうちょっとターゲットが上の中高年の人が阿波踊りをやっていたり、若い世代がよさこいをやったり、本当に皆さんこんなにも多くの人が夢中になれるお祭りになっているんだということが、すごいお祭りなんだなと思ったんです。なので、むしろそこをもっと掘り下げてもらって、たとえば一家でもおじいちゃんおばあちゃんがいたら、おばあちゃんたちが何々に行って、だいぶ前からお祭りの準備をしていると思うの

で、そういう祭にかける市民の思いみたいなものをもうちょっと出してもらったら、このお祭りがいかに全市民を巻き込んだものなのかということがわかったのかなと思いました。ナレーションでは盛んに「たばこ耕作者の慰労」とか「たばこ耕作者の情熱の伝承」という言葉がたくさん出てくるんですが、それが言葉で言われるだけで何がそうだったのか。昔たばこ耕作はどれほど大変なもので、あるいはそういう人たちがハレとケじゃないですけど、趣味みたいなものがなかなかなくて、盛り上げようということでこういうふうになったんだとか、もうちょっとわかりやすく伝えられる方法はなかったのかなと思いました。言葉だけが浮いちゃって、「たばこ耕作の情熱を未来に語り継ぐ」と言われてもなんかちょっとわからないなという思いがしました。むしろそれよりは多くの祭で、担い手が少なくなって廃れていく祭が多い中で、どうして割と東京にも近い、そんなに田舎とは言えない秦野の中で、こんなにも多くの人を巻き込んでお祭りが盛り上げているのだろうかという、秦野祭の不思議みたいなところをもっと近づいて取り上げてもらったら興味深かったかなと。ジャンボ火起こしの6トンの綱引きコンテスト、あれはお祭りオリジナルなものだと思います。どのぐらい前からどんなことでこれが始まって、それが護摩壇とか弘法の火祭につながってきたのかという由来も教えていただければ有り難かったかなと思います。あと参加者と、さっき伺った秦野の人口17万に対して30万という話は、いかにこのお祭りが秦野の全市民的に人を巻き込んでいるのかと想像ができるので、番組の中に入れてもいい数字だと思います。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。いろいろ辛口の意見が出ましたが、これに対して反論したい面、いやそうじゃないんだということは、最後にまとめて大谷さんからお話ししていただければと思います。続きまして林さんお願いします。

林委員

50ぐらいのイベントを30分で。総花的にならざるを得ないという。それと来年

の祭の前に再放送して、祭に来ていただきたいということをPRしたいという、そういう意図をお話しされましたが、やはり30分はきつかったですねという気がしました。そうであれば途中でごみの話が出ましたが、スポンサー絡みですか。

大谷コンテンツ局次長 スポンサーです。

林委員 そうであればいろいろ事情があるんでしょうが、あれを放送されるのであれば、ランタンづくりの女子高校生が涙を流していましたよね。

大谷コンテンツ局次長 表彰式です。

林委員 表彰式で。だからその辺のところにもうちょっとスポットを当てて放送していただければ。あれもこれもというより、何人かに焦点を当てて。それも当然考えられたでしょうけど、そっちの方が印象的かなという気がしました。これだけのイベントですから、実行委員会の委員長は古谷(市長)さんですか。

大谷コンテンツ局次長 そうですね。

林委員 古谷さんに話を聞く必要はないかなという気もしますが、その周辺でご苦労なさっている方はたくさんいますので、そういう方々の話も取り上げていただければなという気がしました。ただこういった番組を作って放送するのは、やはりtvkさんならでのことで、他の局ではできないことだと思うので、これまでも同様の祭シリーズみたいなものを作っていらっしゃいますけど、ずっと続けていただければなと。やはりホッとするところがありますものね。ちょっとにぎやかすぎて息つく暇がないという感じはしましたが、ホッとするところがあるし。秦野は神奈川県の中でも独特な土着の文化を引き継いでいるところですから、そういった地域の特性を訴えるという意味でも、こういった企画の番組は続けていただければなという気がしました。以上です。

山田委員長 ありがとうございます。続きまして五大さんお願いします。

五大委員 先に質問なんですが、この制作は秦野市から依頼されてやっているんですか。それともどこがスポンサーなんですか。

大谷コンテンツ局次長 秦野市さん、それから商工会議所さん、細かく字幕が出ていますが、JTさんなど。

五大委員 たぶんそこがキーポイントかなと思ひまして。どこがお金を出して、これを作らせているのかということだと思ひました。ただこれを観光案内ということで見たときには、絵葉書がパンパンと映っていて祭の楽しさ、美しさやおもしろさがスライドでバンバン出てくるようで、それは楽しめました。ただ私自身が感じたのは、やはり伝統の祭ってありますよね。踊りとか伝統芸能とか、そうじゃなくてこれはまさに戦後生まれた。戦後人々が何かを求めてこの祭りを作り出した。11年前にはよさこいをやったのがこんなに大きくなっている。最初は秦野はたばこづくりだったんだらうけれど、それをもとに人々が何かをそこから起こそうとしたり、生きようとするその胎動が重なって、この祭りをこんなにしてるんだなど。ある意味で人間の、戦後生きた人々のすごさ、秦野の人たちのすごさを感じられて、こんなふうに祭りを作り上げて、今も祭を盛んに燃えたぎらせている人たちがこの秦野にあるんだということを感じました。秦野市スポンサーの由来の祭なので、秦野の祭りを観光アピールという趣旨だと思うので、その辺から考えると盛りだくさんではありますが、それなりに、これは目標を得ている番組かなと思ひました。それでも個人的に、人々が戦後どんなふうにして生きようとして、この祭りにいろんな思いを託してきたのかということを感じました。

山田委員長 ありがとうございます。続きまして、二宮さんお願いします。

二宮委員 吉川先生、五大先生、林先生、みなさんがおっしゃったことと全くダブってしまふんですが。私は平塚に住んでいてすぐ隣ですが、話には何度もこのたば

こ祭は聞いたことはありますが、一度も見たことはありません。見させていた
いて、町を挙げて参加型のお祭りです。私のところでは「七夕まつり」がありま
すが、これは参加型というよりも、みんなが見に行き行って楽しむというものです。
同じように戦争を機会に町を元気にしようというところがスタートだということは、
同じなのかなと思って見ていました。とにかく秦野の人たちは面白い人たち
だなと思ったのは、何でもありじゃないですか、いろんな。面白そうなことをみ
んなやっちゃおうよという中で、まさに16万何人の人口の中で参加したのは、
何人ぐらいいるんだろうかと。先ほどのご説明は観客を含めて30万と。何人
ぐらいが出ているのかな、すごいなど。これとまさしく地域コミュニティ、地域ま
とまろうよという、そういう中でやっているんでしょうけど、おそらく歴史の中で
消えていったイベントもあるんだろうなと。そういうことを思いながら、実行委員
の人たちってすごいなど。これ、自分がもし実行委員やらせてもらったら、ま
められるのかなと。私は結構面白く見させてもらって。来年、私は見に行き
行って本当に千人パレードしているのか、数えてみようかと、そう思いました。

山田委員長

ありがとうございました。続いて白石さんお願いします。

白石委員

30分のたばこ祭。前回どれぐらいかは忘れましたが、よくカメラの人が撮った
など。紹介してもらった後正直そう感じましたね。行事が50ってびっくりしたん
ですけど。これでも相当の事業だなと思うぐらい。細切れなんですけど、非常
に表情をとらえて、笑顔で一生懸命やっている表情が画面の中から感じられ
ました。だからカメラの人たちは相当苦労しただろうと。tvkの皆さんのご苦労
の方が、よくあんな表情をとらえたなということが、感じられたところのひとつで
す。70年の歴史があると、やはりあの辺はたばこで生計を立てていたんでし
ょうね。私のところは蚕です。秦野なんかもそうです。そこで育った子供・孫を
含め、あそこで育って広まっていったんでしょうね。今、たばこはないですけ

ど、祭は「たばこ」と残っている。これが秦野の歴史だと。これは地域の仕事だったと感じているんじゃないかと。たばこの文字は取れないですね。そこに郷愁があるのかなと感じたところです。やはり事業ですね。準備段階から本番まで非常に時間がかかって。訓練とか統率がすごくできていたし、よく準備で頑張ったなということが感じられました。それは子供からご老人までみんな一緒に楽しくというのが画面から感じられ、表情にも出ていました。

山田委員長

ありがとうございました。では布施さんお願いします。

布施副委員長

ちょっと厳しいかもしれないけど、私は全体的に疑問に思いました。たばこ祭そのものは。今たばこそのものは人間の健康に害があるということで、国レベルで禁止しようとしているんですよ。ただ国そのものがたばこ産業というか、そういうものを持っているので、なかなか踏み切れないでいますけど。近い将来はたばこを禁止することじゃないと、たばこの害から様々な健康被害が出てきて、なおかつそれに膨大な国費がかかるという状況は否定できないから。たばこを禁止しよう。たばこそのものは非常に危険な害があることは医療界等々で言われているので、早晚、禁止をどう実施するかは別としても、禁止の方向に行くと思うんですよ。そういうようなたばこを「たばこ祭」ということで、みんなあっけらかんとお祭りしてワイワイ騒いでいること自体が、この人たち何考えてるの、とすごく思いました。これを全国放送したらそういう見方をする人がいると思いますよ。外で客観的に見れば、「なんなの、たばこ祭なんて」と。だからたばこ祭を別のものに変えちゃって、もっと面白い市民参加の祭に作り替えていく方向でいかないと長続きしないと思います。必ず問題が起こります。だからそういう意味では、このテレビはそういうターニングポイントになるんじゃないかと。逆な意味で、すごく意味があると思います。ただし、たばこ祭そのものは意味がない。意味がないテレビを作っているということで

は、テレビ制作についても意味がないというふうに思います。ちょっときついかもしれないけど、論理的にはそうならざるを得ないですね。

山田委員長

ありがとうございました。今日のメインテーマがちょっと出たようですが、これはいろいろ制作サイドから反論というか、意見も出るかと思います。私は、この5年前の議事録に目を通してみまして、5年前の映像は見られなかったんですが、議事録を通して見て、今回これを拝見しましていくつか感じたことがありました。それは、私の意見としてもたぶん言っていると思うんですが、「秦野たばこ祭」の歴史を、もうちょっと細かく紹介したらどうかということでやっている。それは今回ものすごく丁寧に扱っているような気がしました。先ほど指摘されたように、写真とナレーション、明治と江戸の違いみたいなものもありましたが、それは多少はご愛嬌として、ちぐはぐな面もあったんですが、それは歴史を紹介するということで成し遂げたなという気がします。それと今回いろいろな方にインタビューを重ねたということ。祭に関わった人、それを見に来た人、そういったインタビューも重ねて、その中で、市長が最初に言っていましたように、これは市民参加の祭だなということで、これも前回に比べたらステップアップしているような内容になったと思います。やはりみなさんお話ししていましたけど、いろんなものが中に入っていると。30分という短い間にいろんなお祭りがあり、踊りも入れているということで焦点が定まらないというようなことがありまして、前回の視聴合評のときにもそれを感じたんですけど、ただ今回は、私はちょっと視点を変えて、これはもう全部参加した人のイベントは、全部入れる方がベストだなというような感じがいたしました。これはそういった意味では今回は、大谷さんは総花的と言っていましたけど、こうした祭の紹介は総花的にせざるを得ないんじゃないかなという感じがしました。もしさらに突っ込んでやるとしたら、番組の時間を長くするしか方法がないような気

がしました。それともう一つ、今布施さんがおっしゃられたことですね。嫌煙権に関わる、たばこは決して健康なものではない、害が多いということで、これもたしか前回の視聴合評のときは何人かの方が、たばこ祭ということと、嫌煙権の関係で名称が良くないんじゃないかと言われてまして。ただ今回見てみると、私は「たばこ祭」とは出てはいますが、5年前に見たときほど、嫌煙にはあまり神経が届かなかったですね。私はもうたばこが吸えない人間ですので、たばこという何ですかね、においだけでも嫌なんですけど、そういうことが今回の番組の中ではあまり感じられなかった。それはなぜかという、タイトルはたばことなっていますけど、それが5年間の間で少しずつ薄れてきたのかなという感じがいたしました。確かにたばこ祭も70回やっていて、たばこという文字にアレルギーを持つ人もたくさんおられると思いますので、これは番組の性格とはちょっと違いますけど、タイトルを変えることもこの番組が長続きする一つのあれかなという思いもいたしました。それにしても30分間色彩豊かな祭をよくまとめたなという感じで見せてもらい、私はとても楽しい番組だったような気がします。他に何か言い足りなかったこと、言い忘れたことがございましたら。ないですか。それでは大谷さんの方からいろいろ反論したいことがたくさんあるかと思います。

大谷コンテンツ局次長 反論は基本にございません。たしか5年前もそうだったような。5年前も担当していた記憶があるんですが、毎年吉川さんのようなご指摘があったんですが、30分こういった限られた番組の中で、こういう祭という物事、当日の様様をやるのか、準備とかヒューマンドキュメントじゃないですけど、女の子がそれをどうやって作ったのかとか、それで迷うところがあり、前回もそうで、そういう回もありました。10回ぐらい僕はやっていますので。その都度その都度、そうするとお祭りの描写は30分と時間が限られているので、テレビの都合でな

なかなか時間は延ばせないで、どちらをとるか。これまでも人の方、準備の方に当てて本番を少なくするケースもありました。そういう中で試行錯誤の後に、ここ数年はああいう形にしているという現状です。そういう方法もありだなということは、制作側としては重々思っていて、チャレンジしたこともありつつ、なかなか両立できないことが悩みでもあります。今一番力を入れているのは、白石さんがおっしゃった表情がいいよという。今どきなんですけど、撮影方法はすべて小型のカメラをディレクターが持って、カメラを5台で御輿やパレードを。もちろん邪魔しちゃいけないので、すぐ怒られるんですけど、撮るものはちゃんと撮るし、近づけるものは近くにという手法をとっています。比較的ちょっと絵は乱暴だなと、僕が見ても思うんですが、祭り当日の、楽しんでいる市民参加の祭というふうに打ち出しているんで、市民が参加している様子をなるべく出そうというのが今回の趣旨でもあるので。そこにいろんなヒューマンドキュメンタリーを入れたいのも山々なのですが、あれを入れればこれがというテレビの悩みではあります。というのが1点と、「たばこ」という名前に関しては、僕は実はたばこを一切吸ったことがない人間なので、どうなのかなと思うのですが、なかなか、市長も町の人もたばこを耕作してきたという秦野の歴史だけは消したくないという強い意志をお祭りから感じますので、先方が名前を変えない限りは、我々が「この名前はテレビ放送にそぐわないから変えてください」というわけにもいかないのです。お祭りとしては、非常に市民参加でいいお祭りなので放送したいのですが、先方が熱い思いを、今の禁煙とか禁止という流れに、どこかで。現時点としては市長も言っていますが、たばこの栽培は終わったんですよということをナレーションでも何回か言っているのです。そういう歴史を踏まえたたばこだという認識でやっているのです。お祭りの名前が「たばこ祭」とおっしゃる以上、我々もこの名前で行くしかないだろうというのが。向

こうが変えればもちろん我々も変えますが、そういうのが現状です。僕もたばこを吸ったことがないので、この名前はどうかのかなと。実際禁煙団体からお電話を。以前テレビ局にも来たこともありました。ただお祭りの名前がそうなので、こればかりは。

山田委員長 今回はありますか

大谷コンテンツ局次長 ありませんでした。

山田委員長 中身が薄くなってきたんですかね、たばこに関して言えばね。

大谷コンテンツ局次長 なんとなくもう。やるときは事前に「こういう番組をやるようだけど、どうなんだ」と、当時はお電話だったんですが。手法としてはお祭り当日の生き生きとしたところをいくのか、事前の熱い思いにいくのかという二者択一を迫られ、いつも悩んでいる番組です。また吉川さんからご質問のあった、クエスチョンが多かったということですが、番組を作る上で非常に気を付けなければいけないところで、特に何度もやっている番組はそうですし、そうでない番組もそうですが、我々はこの祭りについて熟知しているので、テレビを作るのって、どうしてもわかった上で下調べもすごくやって台本も全部変えていっているのに、「これ、知ってますよね」という前提がなかなか視聴者の方と乖離してしまうことが多々あります。そういうのは注意しているつもりなんですけど、今回は「じんじん」ということの取り扱い、70回の記念なのでなるべくいろんなおめでとうを言いたいところではじめてチャレンジしてみたんですが、まず唐突なパターンは否めなかったです。仕上げた後、確かに放送までに悩んだところだったので。そういう「もう、わかってるでしょ、テレビをご覧の方も」という思い込みは反省しないといけないと、今回の番組の中ではちょっと強く、吉川さんがおっしゃるように感じた部分ではありました。これは気を付けたいなという反省の部分でした。

山田委員長 ありがとうございます。大谷さんからいろいろご丁寧に説明していただきましたが、何か更なるご質問とかご意見ございますか。吉川さんいかがでしょう。

吉川委員 いえいえ。私も本当に火起こしの優勝された方が男泣きされていたり、中学生の女の子がうれし泣きしていたり、そういうビビッドな映像はやっぱりさすがだなと思って拝見していました。

大谷コンテンツ局次長 ちなみに男性の方はウソ泣きです。

吉川委員 だまされちゃった。

大谷コンテンツ局次長 演技です。泣いているふりをしておちやらけているという。

吉川委員 夜中に見たから見抜けませんでした。

大谷コンテンツ局次長 女の子はリアルに。ただ、変な話ですが、表彰式も、これは言っちゃいけないかもしれませんが、「順位付けするな」という指示も、今どきの運動会でもあって、そういうのもあった中で、「いや、やったものには最優秀を出しますよ」と実行委員会がやられたという。それもあって女の子は泣いたんですけど。学校はそういうのを付けるのはどうですかと。たばこの名前も同様なのかもしれませんが、やりにくい世の中になったなど。

山田委員長 千人の方が踊ってパレードするなんて。

大谷コンテンツ局次長 本当に千人いるらしいです。千人以上だそうです。

山田委員長 それだけ、祭に気持ちを入れられるなんて、ある種うらやましいですね。

大谷コンテンツ局次長 たばこ祭音頭などはすぐ覚えられます。ずっと流れているので。

布施副委員長 たばこ祭を切り離しちゃって、みなさん祭の方だけは楽しくどんどんやって。

大谷コンテンツ局次長 たばこを吸っているシーンはワンシーンもないんですけど。名前だけはうーんっていう。実行委員の方も悩んでいらっしやると思うので。

中村社長 秦野っていうのは、二宮さんが詳しいんだけど、富士山の火山灰の土地なんです。なので水田はできないし、たばこしか耕作物ができなかったんです。

よ。

山田委員長

落花生ぐらいですよ。

中村社長

なのでそれで生計を立てたということへの感謝ということだから、布施先生のことわからないでもないけど、やっぱりそれはお門違いだと思います。

布施副委員長

たばこじゃない、もうちょっと夢があるものを作付していかないと。

中村社長

今はたばこをやめちゃって、いちごとかそういうのをやっているんですよ。

山田委員長

古くから言われていることで、人間の評価、特に男性を評価するときに、「あの人は酒もたばこもやらない真面目人間」という、これは趣味趣向の問題であって、真面目・不真面目とは関係ないんですよ。そういうたばこというイメージが、どうしてもそこにまとわりついているような気がいたしますね。他にございませんか。ないようでしたら、3番目その他報告事項にいきたいと思います。

押川編成局長

それではその他報告事項、まず視聴者対応について、お手元の「視聴者対応について」がございます。9月16日から10月13日金曜日までの期間で、電子メールは7,633通、電話で569件、視聴者からお寄せいただいています。各内容の抜粋ですが、8番組に具体的なお声をご紹介します。その他の最後のところですが、先ほどご説明申し上げた「ニュース女子」について、編成についてご意見を56歳男性からいただいています。こういったご意見の視聴者もいらっしゃるということで、tvkとしてもひとつひとつ視聴者からのご意見には丁寧に応えていきたいと考えています。もう1枚の方が問合せメールのメール数ということで、「猫のひたいほどワイド」から、それぞれの各番組のメール数をご報告させていただきます。以上、視聴者対応についてのご報告です。

山田委員長

ありがとうございました。視聴者対応について事務局から説明がありましたが、

これについてご意見ご質問等がありますか。今のいわゆる「ニュース女子はやめろ」という意見に関して、これはtvk側から何かそういう、回答のようなものは出しているんですか、文書で。

押川編成局長 ちよっと、これに対してどう答えたかというのは。お電話等であった場合は先ほどご説明したような状況だということと、私どもとして番組を放送することに対してこうした取り組みをしています、ということをご説明します。

土屋 メールです。電話も一本ありました。

山田委員長 メディアに対する批判はいろいろ昔からありますからね。いちいち対応していたらきりがないところもあるかと思えます。他にございますか、視聴者対応について、よろしいですか。ないようでしたら、前回の番組審議会の様子をお願いいたします。

議 事 報 告

山田委員長 ありがとうございます。本日の議題はすべて終了いたしました。事務局から何か通達事項はございますか。

押川編成局長 それでは次回380回の番組審議会の案内をさせていただきます。開催日時は11月21日火曜日。お時間が変わりまして、午後4時から5時半を予定しています。その後ぜひご都合をつけていただいて、忘年会という形で懇親の席を設けさせていただきたいと思えますので、お時間の調整をお願いします。次回の視聴合評番組は「ファイト！川崎フロンターレ」です。11月10日放送分、当日の午後10時半から11時をご覧になっていただいてご批評いただければと思います。

山田委員長 他にございませんか。ないようでしたら、今日はこれにて閉会とさせていただきます。ありがとうございました。